

学術情報リテラシー修得の到達目標(島根大学)

情報探索のプロセス	1,2年	3, 4年	修士
課題を認識する	課題の意図を正しく理解できる	課題に沿ったテーマを設定できる 自分の設定したテーマについて他の人に説明できる	自ら調査・研究テーマを設定し、仮説を立てることができる
情報探索を計画する	課題を解決するために必要な情報の範囲を把握することができる (学術情報がどのように生産され、流通しているかを説明できる) 一般図書・参考図書・雑誌(論文)・新聞(記事:原紙、縮刷版、データベース)・視聴覚メディア・インターネット等、情報メディアの種類や特性を説明できる	調査テーマに関する先行事例の調査方法を説明することができる 学術情報がどのように生産され、流通しているかを説明できる 信頼性の高い情報を選択できる 課題に応じてメディア(図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット・人的情報源)を選択することができる。特に論文・記事と図書・雑誌の違いを説明できる メディアに応じた適切なデータベースを選択することができる	専門分野における学術情報の流れを説明できる 専門分野の情報探索に適したツールを選択できる
情報を探索する	検索行動において、適切なキーワードを使用することができる(OPAC) レファレンスサービスを利用することができる	文献検索の検索語(同義語・類義語・表記のゆれ・上位語・下位語)を工夫できる。論理演算子(AND OR NOT)を活用できる。(CiNii Articles) 望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、データベース・検索式・キーワードなどを見直すことができる 【オプション】 ワイルドカード(部分一致検索)を活用できる (Web of Science)	専門分野の情報探索に適したツールで情報を検索することができる Ezproxyを活用することができる 【オプション】 アラート機能、履歴検索等、データベースの機能を活用することができる 【オプション】 シソーラスを用いた検索ができる (Pubmed、ERICなど)

学術情報リテラシー修得の到達目標(島根大学)

情報探索のプロセス	1,2年	3, 4年	修士
情報を入手する	<p>図書館における資料の配置・分類法を説明できる</p> <p>検索した資料が実際に配架されている場所へ行き、資料を手に入れることができる</p> <p>貸出中の本館蔵書、あるいは医学図書館所蔵の図書について、MyOPACを経由して予約・取り寄せの申込みができる</p>	<p>参考・引用文献リストを適切に読み取り、調査に活用できる</p> <p>オープンアクセスおよび島根大学が購読している電子ジャーナルについて、公開ページへアクセスし、論文PDFを手に入れることができる</p> <p>附属図書館が所蔵している雑誌に収録されている論文について、島根大学のOPACへアクセスし、配架場所を確かめた上で手に入れることができる</p> <p>島根大学が所蔵していない場合に、他大学の所蔵を調べ、文献複写・現物貸借の申込みをすることができる</p> <p>ShimaneLinksを用いて文献複写・現物貸借の申込みをすることができる</p>	
情報を分析・評価し、整理・管理する	<p>情報を取捨選択し、活用できるように整理できる</p> <p>MyOPACにログインし、自身の貸出情報、予約情報を確認することができる(MyOPACから貸出期限の延長をすることができる)</p>	<p>EndNoteやMendeleyのような文献管理ツールを用いて、CiNii ArticlesやWeb of Scienceといったデータベースから文献情報をインポートすることができる</p>	<p>文献管理ツールの機能を用いて、Word等の文書ファイルに参考文献を挿入することができる</p>
情報を批判的に検討し知識を再構造化する	<p>入手した情報、データおよび意見を比較・分類して、自らの考えと類似する点や違う点を説明できる</p>	<p>選択した情報、データおよび意見を自分の文脈で意味づけ、自分の言葉で説明できる</p>	<p>得た情報、データおよび意見を一般的な概念として構成し、それを新たに適用することで知識として再構成できる</p>
情報を活用・発信し、プロセスを省察する	<p>レポートの一般的な体裁に従って執筆をすることができる</p> <p>(情報の典拠を明示し、適切に引用できる)</p> <p>(提出先が指定した通りの方法で正しく引用し、参考・引用文献リストを作成できる)</p> <p>自らの考えを、論拠を示しながら論理的に発表できる</p> <p>著作権・個人情報保護等の情報倫理に留意できる</p>	<p>学術論文の構成に沿った文章を記述できる</p> <p>情報の典拠を明示し、適切に引用できる</p> <p>提出先が指定した通りの方法で正しく引用し、参考・引用文献リストを作成できる</p>	<p>自分が発信した情報・論文を評価できる</p>